

令和6年度 横浜カレッジ 自己評価報告(ダイジェスト)

1. 実施方法

自己評価については、平成25年3月に文部科学省により出された「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り実施。 ※別紙: 令和6年度 横浜カレッジ 自己評価表
以下、項目ごとの課題事項、年度トピックについて概要をまとめた。

2. 評価項目の達成及び取り組み状況

2-1. 教育理念・目標

(1) 教育理念・目標

本校は、学校法人岩崎学園の理念である「人材育成を通じた地域社会への貢献」のもと、①感性の向上 ②高度な技術力の習得 ③豊かな人間性の涵養 ④プレゼンテーション能力の育成の4つを教育目標に掲げ、ファッション、美容、ブライダル分野の人材育成に取り組んでいる。

(2) 将来構想へ向けた体制

岩崎学園100周年を見据えて策定された中期事業計画に基づき、学園本部および姉妹校を横断するプロジェクト(IR推進委員・DX推進委員・キャリア開発推進・教育環境整備等)が活動している。本校からは、若手、中堅教職員がプロジェクトメンバーとして積極的に参加し、新しい教育の立案推進に携わっている。

2-2. 学校運営

(1) 運営方針

理事会での学校運営に関する根幹の決定に基づき、3つの重点実施項目を策定し教育活動を行った。リーダーを軸に、効率的な学科運営を行う目的で設置した学科別の業務グループについては、学校目標からブレイクダウンされたグループ目標が明確化され、組織的に業務遂行が行える体制となっている。また、事業計画は、個人の業務計画・目標に落とし込みを行い、期首・中間・期末での振り返りを実施。成果の見える化を基準にグループリーダーと面談を実施し、教職員の育成にも傾注した。

一方で、後継者となる管理職の育成が課題。組織的な取り組みが急務。

(2) IT ツール活用による教育のDX化と業務の効率化

Swipe Video(自由視点映像ソリューション)を全学科で導入。学科による活用頻度、クオリティにバラつきが見られたが、今年度新設のヘアメイク・アイデザイン科においては、美容師国家試験実技試験課題のコンテンツを作成し、授業内および予習復習に活用。

校務負担軽減ならびに業務効率化のため、年間のタスクスケジュール表を作成し作業の見える化を推進している。

(3) 働き方、健康管理

募集活動等に係る休日出勤については、振替休暇の取得が比較的しやすいよう、引き続き半日勤務を推奨。学内に衛生委員を置き、学園本部と連携しながら教職員の健康管理、校内環境、教室環境の改善に努めている。

2-3.教育活動

(1)教育課程の編成・実施方針

- ①教育理念・目標を具現化するためアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをベースに、「学科グランドデザイン」「カリキュラムグランドデザイン」「シラバス」を作成。学科にかかわる常勤・非常勤を含めた教員で共有し、教育内容の明確化と科目横断的な教育効果の向上を図っている。
- ②年2回の本校教育分野関連の業界団体・企業等の有識者による「教育課程編成委員会」や、産学連携の取り組みを通して、グランドデザイン、シラバスの見直しを行い、産業動向や企業ニーズに合わせた教育を推進している。

(2)魅力的なカリキュラムの構築

産学連携やインターンシップなど、学外との連携で実践的な学びを体感できる場を提供。新規連携先の開拓も積極的に取り組み、全ての学科で新規連携を実施した。

業界のトレンドを学ぶ授業連携プログラムを実施。美容系学科では国内のみならず海外（韓国）からもアーティストを招聘し、楽しい学びを体感できるよう、学生に関心の高い技術のデモンストラーションや海外での業界動向等について学ぶ機会とした。

(3)令和7年度に向けた、学科カリキュラムのブラッシュアップ

令和7年度の展開に向け、①学生に分かりやすく、②時代の変化の中でも通用する、③学生と教務双方にとって効率的で運用しやすい等を目的にカリキュラムのブラッシュアップに着手。また、最新の技術やトレンドを存分に盛り込み実践的な授業が展開できるよう、教職員の外部研修も奨励している。

(4)産学連携・インターンシップの体系化

産学連携やインターンシップへの参加も多数あり、学生には実践的な学びの場となった。

①企業提示の課題による産学連携

- ・昨年に引き続き、横浜高島屋とアーリーマウンテンワークスの連携により、レザーアイテムの商品開発に取り組んだ。FLD 学科全員がデザインに参加し、害獣(猪・鹿)の革を使用した衣類・雑貨の作を行った。
- ・横浜高島屋 65 周年記念イベントとして、横浜高島屋・フェリス女学院・横浜ジョイナス・横浜カレッジのコラボレーションによるファッションショー(YOKOHAMA MIRAI につなぐファッションショー)に参加。サステナブル素材を使用したブランドのスタイリングショーで、ファッション系学科のみならず、美容系学科の学生もヘアメイク、モデルで参加した。
- ・ウェディング企業(アニヴェルセルみなとみらい・アイルマリー横浜)との協業による、結婚式プロデュースを実施。
- ・株式会社 OPA、有限会社やまぎんによる「サステナブルプロジェクト Sustainable Uniform Design Award 2025」にて、昨年に引き続き FLD 学科学生のデザインがグランプリを受賞。OPA、VIVRE、FORUS のインフォメーションにて着用された。

②現代の抱える課題や社会貢献につながる取り組み

- ・サステナブルとサーキュラーエコノミーを表現する場として、学生によるリメイク・アップサイクル商品の展示販売をラフォーレ原宿にて実施。また、販売に先行してファッションショーも実施。

③企業によるイベント協力等での地域振興への協力

- ・地元スポーツチームの試合時の応援イベント支援(フェイスペイント等)

(5)教員研修

教職員には、専門性を高めるための研修と、教授法や学生指導に関する研修を実施し、研鑽を積んだ。また、令和4年度より、学園の制度として、教職員の自主的なキャリアアップを支援することを目的としたキャリアアップ支援制度が設置され、8名が新しい資格にチャレンジし取得した。

多様化する入学者の学生指導をスムーズに行うため、本校カウンセラーによる「学生指導のポイント」をテーマに研修を実施。メンタル面や発達障害が疑われる学生への適切な対応について学びを深めた。(常勤、非常勤が参加。)

2-4.教育環境

(1)施設・設備

前年度に引き続き、すべての学科で学生にノートPCを貸与。自宅でオンライン授業が受講できる体制を整えている。また、学内に個室型ワークブースを3台設置し、就職活動におけるオンライン面接等に活用した。

2-5.学習成果

(1)内部特待生制度

本学園のすべての専門学校に在籍する進級学生を対象に「内部特待生制度」が導入されており、令和6年度は13名の内部特待生を選出した。

内部特待生は、学校情報の発信への寄与に加え、校内で行われた学校行事にも率先して参加し、他の学生の模範となっている。

(2)就職実績

進路・就職に対する支援は、企業との窓口や学生への就職指導を担当する職員と教員が連携し、学生の活動をサポートしている。令和6年度は、就職活動の二極化が顕著に表れ前年比マイナスとなった学科もあった一方で、メイク関連企業への就職者が[※]100%と好調であった。

【令和6年度就職実績】

・就職内定率:97.6%(就職希望者291名、就職者284名)

(3)時代のニーズに対応した学習の導入

・アパレル業界のDX化を踏まえ、2022年より導入した3Dモデリスト育成教育では、3Dモデリスト2級・3級の合格者も年々増加しており着実に成果を出している。特に3級合格率は75%と導入している専門学校ではトップの結果となった。

・美容の多様化に対応し、施術者向けに創設したメンズヘアメイク検定も3年目を迎え、受験対象者を全学科に拡充予定。美容系以外の学科にも展開することで、幅広い学びを提供できる仕組みを構築する。

(4)資格取得・コンテスト

【資格】

学習の目標としてカリキュラムの中に計画的に資格取得を配置し、専門知識、技術の確実な習得をめざすとともに、合格により達成感を体感し、次のステップへの意欲醸成につなげている。

- ①美容師国家試験合格率 92.4%(実技合格率 100%、筆記合格率 92.4%)
- ②美容師科で令和2年度から導入した「ヘアケアマイスタープライマリーコース」の合格率は74%低迷した昨年に比べて+7%という結果を出すことができた。
- ③ヘアメイク・アイデザイン科では、シュウウエムラ メイクアップ技術検定試験 合格率 100%。
- ④ビューティーコーディネーター科では、検定対策の一環として、マイクロラーニングを継続。
日本メイクアップ技術検定1級合格率 87.2%
ネイリスト技能検定2級合格率 100%
JNA ジェルネイル技能検定上級合格率 74.0%
エステティシャンセンター試験合格率 94.7%
AEA 上級認定エステティシャン合格率 94.4%
- ⑤ブライダル科では、サービス接客検定準1級(ロールプレイング)合格率 100%の成果を出し、団体優秀賞、文部科学大臣賞(1名)、日本秘書クラブ会長賞(1名)、日本秘書クラブ奨励賞(3名)受賞の快挙となった。
- ⑥ファッションライフデザイン学科では、洋裁技術検定中級合格率 100%
色彩技能パーソナルカラー検定モジュール1 合格率 100%(団体表彰受賞)
ファッション3Dモデリスト検定2級 合格率 100%
- ⑦ファッションビジネス科では、スタイリングマップ ジュニア合格率 80.0%
ファッション販売能力検定3級合格率 77.0%

【コンテスト】

学生の社会的な評価を得る機会として、外部コンテストへの参加を促進。

- ①ファッション系
 - ・株式会社パル主催「PAL Foundation Cup」本選に出場し、シルバー賞受賞
- ②美容系
 - ・(株)ラグゼビューティー主催「ヘア&メイクアップフォトコンテスト」2作品入選
 - ・神奈川県美容技術選手権大会 学生大会の部に初参加し、オールウェーブ部門で1位~3位を独占受賞
 - ・TONI&GUY JAPAN STUDENT IMAGE OF THE YEAR 2024 フォトコンテストにて第3位入選

(6)退学者

退学率 11.5%(前年 13.2%)

昨年度、退学者の半数以上が後期に発生したことを踏まえ、夏休み以降に席替えの実施、授業内でのグループワーク増加、こまめな声かけや面談の継続、上級学生からの声かけ等の対策を講じた結果、後期の累計は昨年比-15名となった。

昨年度に引き続き、精神疾患の悪化による退学者が全体の 1/3 を占めた。また、対人関係構築の難しさなどから退学に結びつくケースが目立ち、スクールカウンセラーの活用促進など、次年度に向けて対応の見直しを行う。

2-6. 学生支援

(1) 学生相談

状況ごとにクラス担任、学科リーダー、専門のカウンセラーと複数人で対応をしている。

(2) 経済的な支援

- ・令和2年度より始まった「高等教育就学支援新制度」の対象機関として認定を受け、学費支援策の枠を広げた。
- ・給付型、貸与型と様々な支援策があり(下記参照)、また、利用者も年々増加傾向であるが、それでも経済的な苦勞を抱える学生は少なくない。

【学費支援策利用状況 人数は延数】

	令和6年度	令和5年度	令和4年度
岩崎学園奨学生制度(貸与型)	8名	9名	9名
日本学生支援機構奨学生(貸与型)	335名	348名	322名
日本学生支援機構奨学生の内、学費分割納入者	196名	198名	177名
日本学生支援機構(給付型)	127名	122名	129名
高等教育の修学支援新制度(授業料等減免)*令和2年度より	127名	122名	127名
岩崎ともみ奨学財団奨学金(給付型)	5名	9名	9名
美容系求人企業奨学金(給付型)	1名	1名	1名

(3) 保護者との連携

前期、後期の成績については、学校生活や就職活動についての「保護者へのお便り」とともに書面とWebシステムを使用して通知している。また、入学ガイダンスや美容師科・ビューティーコーディネート科の保護者会、学校行事の様子などをオンライン配信した。また、新設学科である、ヘアメイク・アイデザイン科については、学科の学びや次年度就職活動等を丁寧に説明するため、三者面談を実施した。

(4) 防災体制

激甚災害行動マニュアルを策定し運用。

スラックを活用し、台風・降雪等の荒天時の教務部判断を設けて対応。

2-7. 学生の受け入れ募集

前年度に引き続き、対面とオンラインのオープンキャンパスを併用しながら学生募集活動を展開。令和7年度の入学生は453名(前年:436名)。

2-8. 財務

財務基盤は安定しており、継続的な学校運営に問題ない状況である。

2-9. 法令順守

学校の設置や運営に関する法令は遵守しており、神奈川県での認可を受けている。毎年、学則、カリキュラムの届出と学生数、教職員状況、卒業生状況等の報告を行っている。

個人情報保護については、本学園ホームページで公開している個人情報保護方針に則り行っている。平成25年3月に文部科学省により出された「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、自己評価を実施。ホームページ上で公開するとともに、学校関係者評価委員会を開催し、専門的かつ客観的な意見を聴取した。また、議事録をホームページ上で公開した。

2-10.社会貢献・地域貢献

(1)学校の教育資源や施設を活用した社会・地域貢献

本学園の姉妹校とも連携しながら、地元プロスポーツチームや地域イベントの活動に参加し、日ごろの学習成果を披露しながら地域社会に貢献。学生主体で立ち上げたサークル活動などを通じて、社会貢献や地域貢献の活動の企画から実行までを継続的に行うことが課題。

(2)地域に対する公開講座・教育訓練の実施

高校生向けキャリア講座(仕事の学び場(5 講座 113 名)、総専協夏期講座(2 講座 33 名))の受け入れを行った。

以上